

南城市 防災マップ



日頃から防災マップを確認し災害に備えましょう
いざという時の連絡先

消防への急報(火災・ケガ) 119番		警察への急報(事故・事件) 110番	
島尻消防本部	098-948-1778	与那原警察署	098-945-0110
島尻消防佐敷出張所	098-947-0124	沖縄県警察本部	098-862-0110

NTT災害用伝言ダイヤル 171番

大規模な災害が発生して電話が繋がりにくいときは、安否の確認や連絡用に利用できる「災害用伝言ダイヤル171」を活用しましょう。「171」をダイヤルし、案内放送にしたがってご利用ください。

- 災害用伝言ダイヤルを家族と体験してみよう
- 「災害用伝言ダイヤル(171)」には災害時以外に体験利用日が設けられています。*体験利用の終了時間は伝言は削除されます。
- * 毎月1日および15日(00:00～24:00) * 防災週間(8月30日9:00～9月5日17:00)
- * 正月三日(1月1日00:00～1月3日24:00) * 防災ボランティア週間(1月15日9:00～1月21日17:00)

南城市役所 098-917-5309 秘書防災課 098-917-0256

防災マップの使い方 自宅の位置 → 避難所 → 避難経路 → 歩いて確認

- 1 自宅の位置を確認しましょう。
災害が想定される位置を確認しましょう。自宅がある場所は、どのような災害が予想されるのか、地図をみて確認しましょう。
- 2 次に、自宅付近の避難所を確認しましょう。
自宅が一番近い災害に応じた避難所を地図で確認しましょう。
- 3 災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。
避難経路を地図で確認し、土砂災害や津波などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。
- 4 実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。
家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

医療的ケアが必要なお子さんがいるご家族へ

台風等災害が発生 避難しない(自宅避難)

いつ頃来るか、台風等災害の規模を確認!!

避難する判断の目安

- 電源確保ができず、生命に関わる状況である
- 避難に必要な人手がある(本人、必要な医療機器・物品等)
- 屋外へ出られる安全な状況であり、避難経路に問題がない。

避難後の状況を第1連絡先へ連絡する。

南城市役所は「高齢者等避難」の発令時に避難所開設します。

- 避難所で提供できるもの(水、食料、毛布等)は限りがあります。
- 医療機器の使用や蓄電池等充電のための電源使用が可能です。
- 避難所の状況により、ご案内できる場所は希望に添えない場合があります。

問い合わせ先 秘書防災課 TEL:098-917-0256

本人の基本情報(緊急時情報提供カード)

氏名	生年月日	H・R (西暦)	年 月 日
保護者氏名	血液型	A B + -	O AB -
連絡先	住所	科	医師
病歴名	第1連絡先	※予め、相談しておきましょう。	

避難先リスト

優先順	名称	所在地(市町村)	連絡先	非常用電源等
1				有・無
2				有・無
3				有・無

避難時の持ち物リスト

医療ケア	生活必需品
<input type="checkbox"/> アンビバーク	<input type="checkbox"/> オムツ
<input type="checkbox"/> 外部電源(バッテリー、発電機など)	<input type="checkbox"/> 専用の食べ物
<input type="checkbox"/> 酸素ボンベ	<input type="checkbox"/> 酸素ボンベ
<input type="checkbox"/> 気管カニューレ、人工鼻	<input type="checkbox"/> 薬(内服、坐薬など)
<input type="checkbox"/> シリンジ、吸引チューブなどの衛生用品	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (携帯電話)充電器
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 各種保険証、お薬手帳(コピーでも可)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他(自動車のガソリンを満タンにする)

避難情報

洪水・土砂災害での避難の仕方

歩ける深さは50cm!!
歩ける水深は平均約50cm。水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう!

履き物に注意!
裸足、長靴は禁物です。ひもでめられる運動靴が良いでしょう。

ロープでつなげる!
はくれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。また、水面下には危険が潜んでいます。長い棒を杖がわりに安全確認をしてください。

もしも、土石流に遭遇したら
逃げ方に注意しましょう
土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。

命を守るために情報の収集に努めてください しっかり確認!

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。

「特別警報が発表されない」「災害が発生しない」ではありません。特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

防災アプリや防災情報を活用しましょう 声かけ!

災害時には自ら情報収集をすることがとても重要です。

地震・津波・豪雨・台風などの災害に関する警報がスマホに通知されるため、テレビやラジオで確認できない状況でも災害の状況を迅速に把握することができます。また、現在の場所の最新情報がスマホから情報収集が可能です。災害が起きた時に心配なのは家族の安否です。電話やメールで無事を確認しようとしても、災害時は繋がりにくいため、防災アプリは家族の位置を把握できる機能が付いたものをおすすめします。家族の位置や情報を通知する機能があれば、無事かどうか判断できて安心です。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

- 南城市公式HP・LINE: 南城市の最新情報を確認することができます。
- あなたの街の防災情報: 自分が住んでいる地域の防災情報を確認することができます。
- 沖縄県地図情報システム: 沖縄県が提供する地図情報システムで警報区域等を確認することができます。
- 沖縄県防災情報ポータル: 発表されている避難情報や気象警報等を確認することができます。
- 南城市河川・道路等監視システム: 南城市の河川等を監視することができます。
- コスモキャスト: 防災行政無線の放送内容を確認できる防災防災アプリです。

土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合が高くなっています。

土石流

山麓・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へ押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちには人家や畑などを壊滅させてしまいます。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいと、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

土砂災害警戒区域や避難所等を確認しておきましょう!

土砂災害警戒区域は、「土砂災害が発生した際に、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。

土砂災害特別警戒区域は、「建築物に損傷が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域」です。

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨のときに警戒避難が必要となる可能性がありますので、避難動向などの連絡にも注意してください。

地震・火災

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 手近な床や机などで頭を保護
- すばやく火の確断 火の元を消す。コソッと
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら落ちて着いて初期消火
- 家の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 怪我をなく ケガ防止のための靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロッカー・自動販売機等へ注意
- 津波などの危険が予想される地域はすく避難

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 大音で知らせる 救出・救助
- 初期消火 消火器を使う バケツリレー
- デマにまどわれない
- 電話は緊急連絡を優先する
- 避難時には車は使用しない
- 余震に注意

ラジオなどで正しい情報を得る

- 大音で知らせる
- デマにまどわれない
- 電話は緊急連絡を優先する

ラジオなどで正しい情報を得る

- 水、食料は備えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

数時間 3日

ホテルの中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れが止まらないうちに(ガラスの破片などでケガをする)。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- 合わせて冷静な行動をとる。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- 柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などへ避難する。
- 近くで空き地がない場合は、周囲の状況を確認し、判断して、建物から離れた安全な場所に場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などので保護して、空き地や公園などへ避難する。
- 揺れが止まらないうちに、周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要となる場合は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波警報をよく聞き、注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

バスなどの車内

- つり革を必ず両手に握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などで保護して、空き地や公園などへ避難する。
- 途中で止まっても、非常ボタンを押して勝手に扉が開かないように注意する。
- 乗務員の指示に従って落ち着いて行動をとる。

消火栓の使い方

粉末・強化液消火剤の場合

安全ピンに指を掛けて引き抜く。

ホースをはずして火元に向ける。

消火栓のかまえ方

- 風上へ回り風上から消す。炎はほとんど正対しないように、やや腰を落して姿勢をなるべく低く、熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわれないように顔を覆っているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

個別避難計画と自主防災組織

個別避難計画について

避難行動要支援者名簿ってなんだろ?

南城市では、大規模災害が発生した時に備え、高齢者や障がい者など自力で避難することが困難な方について、地域の方々による安否確認や避難支援に役立てるための「避難行動要支援者名簿」を作成しています。

名簿の対象となる方

- ① 要介護認定3、4、5の方
- ② 療育手帳A判定の方
- ③ 身体障害者手帳1級または2級の方で視覚障害、聴覚障害、肢体機能障害の方
- ④ 精神障害者保健福祉手帳1級の方
- ⑤ その他、特別な事情で避難支援を希望する方

災害時の「もしも」に備え、避難行動要支援者名簿提供への同意確認

事前に同意を得た避難行動要支援者の情報については、自治会や自主防災組織、民生委員・児童委員、社会福祉協議会などの「避難支援関係者」に提供され、平常時の見守り活動や災害時の避難支援、安否確認などに活用されます。

問い合わせ先 生きがい推進課 TEL:098-917-5341

自主防災組織

災害発生時には、自助・共助・公助の連携による人的・物的被害を軽減することができます。ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の方で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めませんか?

自助: 自分自身や家族・財産を守るための活動

共助: 地域や近隣の人が互いに協力し合う活動

公助: 消防、警察、行政、公益企業が実施する救助・援助活動

- 1 自主防災組織とは?
災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
● 平時時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出・救助、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。
- 2 なぜ、自主防災組織が必要なの?
● 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。このような時、地域の皆さんが一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救助活動に取組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に定めるためには「お互い」に顔の見える関係の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。より効率よく、さまざまな活動をするために事前の準備(=体制づくり)が重要です。

津波

避難時の注意点 すぐ高台へ!

防災情報はいろいろあるけど、いつ避難すればいいの? 水害・土砂災害の防災情報の伝え方がわかります

逃げ遅れゼロへ 警戒レベル4で全員避難!!

【警戒レベル】で避難のタイミングをお伝えします。

市では、皆さんの命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」「避難指示」を発令し、皆さんに避難を促します。

市から【警戒レベル①、②】が発令された地域にお住まいの方は、速やかに避難してください。

警戒レベル①: 心構えを高める(気象庁が発令)

警戒レベル②: 避難行動の確認(気象庁が発令)

警戒レベル③: 高齢者等は避難!!(市町村が発令)

警戒レベル④: 全員避難!!(市町村が発令)

警戒レベル⑤: 既に災害が発生!(市町村が発令)

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目処に津波警報(大津波、津波)または津波注意報を発表します。

津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ	想定されるべき行動と取るべき行動
大津波警報	予想される津波の高さが高いところ	津波の高さ予想の区分 10m超(10m<予想高さ) 10m (5m<予想高さ≦10m) 5m (3m<予想高さ≦5m)	巨大 陸域に津波が及び浸水するおそれがあるため、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
津波警報	予想される津波の高さが高いところ	3m (1m<予想高さ≦3m)	高い 陸域に津波の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れた。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしない。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところ	1m (0.2m ≦ 予想高さ ≦ 1m)	(表記しない) 陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れた。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしない。

※ 大津波警報は特別警報に位置づけられています。

風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策。

まずは、確実な情報が大事。その次に迅速な対応

大雨注意報	大雨警報	大雨特別警報
大雨による土砂災害や浸水が発生するおそれがある場合 警戒レベル2	大雨による重大な土砂災害や浸水が発生すると予想される場合 警戒レベル3	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表 警戒レベル5

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらくなる。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土砂が起りやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩くと歩けなくなる。傘が飛ばない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいいる。	しっかりと身体を確保しないと物が破損する。風で飛ばされた物が窓ガラスが割れる。	立っていない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

(平均風速:m/秒)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらしています。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上～800km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満

集中豪雨(線状降水帯) 必ず確認!

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間で集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持ち出し品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつもより避難できるように準備をする。

※ つねに気象情報には、注意しておきましょう!